

【小学校第6学年の実践】

1 主題名

国のために、人のために【C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】

2 教材

百年先の人々のために 廣井 勇（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度とは、我が国や郷土の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国や郷土を愛する心をもつことに関する内容項目である。自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものであり、生きる上での大きな精神的な支えとなるものである。郷土の伝統と文化を大切にすることは、過去から現在に至るまでに育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心をもち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。それが、国や郷土を愛する心へとつながっていくよう指導することが求められる。

第6学年の指導に当たっては、郷土の伝統や文化のよさについて理解を深めることを通して、伝統や文化を育んできた郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

伝統や文化を育んできた郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとする心情を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①総合的な学習の時間「能楽体験」

地域に残る伝統文化に関心をもち、それらが長い歴史の中で培われ、受け継がれていることを理解させるために、能楽体験を行っている。児童は、小樽にある北海道唯一の能楽舞台や能楽について本やインターネットで調べた後、能楽堂において能を見学したり、能楽師の説明を聞いたりした。また、楽器の演奏の仕方を教わり実際に演奏した。本学習を通して、自分たちが住む地域には伝統文化が残っており、それを受け継いでいる人々がいることを知ることができた。道徳科において考えを深めることで、自分との関わりで、さらに郷土を大切にしようとする心情を育む指導を行う必要がある。

②特別活動「児童会活動（郷土愛プロジェクト）」

郷土の歴史や文化を尊重し、さらに発展させていこうとする態度を育成するために、一般社団法人小樽青年会議所が主催する「郷土愛プロジェクト」に学校全体で参加している。地域の人が講師となった出前授業で、小樽の歴史や魅力について話を聞いたり、保護者・地域の人と協力してギネス記録となるはしげ餅づくりをしたりするなど、地域への愛着を深めることができた。「郷土愛プロジェクト」を通して、「小樽の好きなどころ」を改めて考えたり、小樽運河の歴史について学んだりすることができたことから、道徳科において発展させ、これらの道徳的価値について、自分との関わりで更に考えを深めさせる必要がある。

(3) 教材について【教材観】

郷土と自分との関わりについて多面的・多角的に考えさせるために、長い年月をかけて北防波堤を完成させた廣井勇の郷土への思いを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

そのために、一つ目の発問では、廣井勇がなぜ北防波堤をつくろうとしたのかを考えさせ、廣井勇の立場に共感しながら、郷土を発展させていこうと努めることの大切さについて考えを深めさせる。

中心的な発問では、廣井勇が残し、受け継がれてきたものは、形あるものだけではなく、思いや願いであることにも気付かせ、郷土を愛することについて考えを深めさせる。

4 ねらい

廣井勇の生き方に触れることを通して、我が国の発展に尽くした先人の努力を知り、伝統や文化を育ててきた郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとする心情を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 小樽に残していきたいものを話し合う。 ○ これからも残していきたい小樽の伝統や文化には、どのようなものがありますか。 ・運河 ・潮まつり ・能楽堂 ● 北防波堤と廣井勇の写真を提示する。	・地域の歴史的建造物や自然等の写真を提示する。 ・身近な地域の伝統や文化について想起させることにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。	【工夫①】 ・児童の発表に合わせて、写真を提示し、ふるさつについて興味・関心をもたせる。
展 開	● 教材「百年先の人々のために」を読み、話し合う。 ○ 勇は、なぜ、北防波堤をつくろうと考えたのでしょうか。 ・小樽の荒波が人々を悩ませていたから。 ・私にしかできない何かを残したいと考えたから。 ・小樽を発展させたいという思いがあったから。 ◎ 勇が残したものは、北防波堤だけでしょうか。 ・コンクリートのねり方などの技術や知識を残した。 ・作業員たちに、仕事の重みを伝えた。 ・何度も実験したことから、あきらめない心を残した。	・勇の立場に共感させることで、郷土を発展させていこうと努めることの大切さについて、自分との関わりで考えを深めさせる。 ・勇が残したものについて、形のないものにも、目を向けさせ、価値理解や他者理解を深めさせる。 ・ノートに自分の考えを書き、考えを友だちと交流することで、多面的、多角的な思考を促す。	【工夫②】 ・児童の発言を分類し、整理して板書することにより、道徳的価値について、多面的・多角的に捉えられるようにする。 【工夫③】 ・話し合い後、個人思考の時間を設定し、交流により自分の考えが深まったり、広がったりした場合は、ノートに自分の考えを書き加えさせ、自己理解が深まるようにする。
	● 自己を見つめる。 ○ 皆さんが「小樽に残したい。」と考えたものを、これからも残すために自分たちでできることはありますか。 ・未来のために何かしようとする気持ちをもつこと。 ・もっと、小樽の歴史などを知ること。 ・楽しんできたお祭りや自然を受け継いでいこうとする気持ちをもつこと。	■ 伝統や文化を育ててきた郷土を受け継ぎ発展させていくことの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・導入の内容と関連させながら、自分の生活を振り返ることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。
終 末	● 校長先生の説話を聞く。 ※教師の郷土の歴史や文化に関わる経験などについて話をする。	・郷土の伝統や文化を受け継ぎ発展させていこうとする態度が育まれるようにする。	

6 板書



7 ノート・ワークシート

9月19日(水)

ふるさと
小樽市
坂～持ちもの

観光 伝統
ハの豊 母校

9/19(水)

〈他の人〉
北海道の発展に貢献したという
しょうごー北防波堤

自分達ができること
今までもずっと続けてきた文化を
の先もみんなと続けていく。
小樽の美しい自然を大切にす
る。木を切らない。山をなく
さない。

他の人々
今や伝統を継いでいることを続ける。
よさを伝える。

環境をこわさないように
・小樽の形を保つ
・安心して生活できる

私たちにできること
・前のように見よう。
・小樽の場合、おれい
・歌声かけたり、世界中の
は、世界中のみんなに
このことを伝える

【授業実践を振り返って】

〔中心的な発問の工夫〕

児童は、廣井勇が百年先に残したものは北防波堤だと考えたことから、中心的な発問で「勇が残したものは、北防波堤だけでしょうか。」と問いかけることで、廣井勇の行動を支え、受け継がれてきたものは、北防波堤だけではなく、「郷土のためにできることをしたい。」「郷土の一員として、伝統や文化を受け継いでいきたい。」という心情であることに気づき、郷土を愛することについて深く考えることができました。

〔板書を生かす工夫〕

黒板中心には、教材をもとに、ねらいとする道徳的価値について話し合ったことを位置付け、児童の発言の内容ごとに整理して板書し、児童が多様な考え方や感じ方に気付けるよう工夫しました。

また、黒板左側には導入場面における児童の考えを可視化した写真を掲示し、黒板右側には展開後半の自己を見つめる場面における児童の考えを位置付けることで、児童は、他者との考えの違いを対比し、価値理解や自己理解を深めることができました。